

## 刊行にあたって

校長 岡 留 秀 一

研究紀要「あゆみ」第7号の刊行にあたり一言ご挨拶申し上げます。

昨年は、大村智・北里大学特別荣誉教授がノーベル生理学・医学賞を受賞し、日本中が喜びに沸きました。この受賞は、微生物の働きを研究して熱帯病の特効薬の開発につなげ、アフリカや中南米の多くの人々を失明などの危機から救い出した業績が評価されたものでした。

大村教授は、大学卒業後、定時制高校の教師をされていましたが、ある時、生徒たちが仕事を終え、油がこびりついた指で鉛筆を握る真剣な姿を見て、「自分も学び直そう」と決意をされました。そして、夜は教壇に立ち、昼は大学院で一から学問に取り組み、自身の全能力を絞り出すような努力によって、着実に成果を結実させていったのです。たゆまぬ努力と確固たる信念を自らの支柱とし、研究を続ける大村教授の姿は、大切なことを示唆しているように思います。

本校は、県下で唯一の全日制、定時制、通信制の3課程が併置された単位制の高校です。全日制には普通科と福祉科、定時制には普通科とオフィス情報科、通信制には普通科と技能連携にともなう衛生看護科があります。更に、社会人が高校生と一緒に学べる科目履修制度を設けるなど、幅広い年齢層の方々の学びへの要望に応えることができるという点において、全国にも誇れる学校です。

今春、通信制課程で、81歳の女性と事故で胸から下の自由を失った19歳の男性が卒業されました。年齢も入学理由も異なる2人ですが、高校で学べたことへの感謝をかみしめ、新たな一步を踏み出されました。学校で学ぶ意義とは、将来、自分の夢を実現するための力を養うことだと言えます。しかし、開陽高校を卒業する生徒たちを見ていると、学校で学ぶ意義は他にもあるようです。「教えることは学ぶことである」と言われます。生徒の学習意欲をどう醸成するか、教師は指導方法をどう改善していけば良いか、日々、行住坐臥、刻苦勉励でなければならないと思うことです。

最後に、本研究紀要を御覧いただいた皆様から忌憚のないご意見やご指導等をお寄せいただければ幸いです。また、多忙な中、原稿を寄せていただいた先生方、編集に携わっていただいたすべての方々から心から感謝して序文とします。